

## 第 26 回（生活支援）分科会報告書

1. 開催日時：平成 26 年 6 月 23 日（月）13：30～15：00
2. 開催場所：筑陽会 赤坂園
3. 参加者（所属のみ）：南筑後 HWE、八女市包括、東包括、広川町包括、若楠園、蓮の実園、ミライプラス、夢工房、陽だまりの里、おおぞら、サングリーン、年輪の園、ふるさと、八女市家児相、ゆうゆう、ゆうゆうハイツ、八女作業所、社協、城山学園、飛形学園、八女市、リーベル
4. 実施内容
  - 事例概要説明（ふるさとより）
  - グループ検討（課題、対応）

A グループ

（課題）：他者の意見を聞かず施設を出ていく。後見人である叔母との関係が良好ではない。

（対応）：好きなものを取り入れる。後見人は叔母→第 3 者に変更できないか。社協の金銭管理。GH の楽しみを見つける。課題、ストレスを明確化し、できるだけ GH の利用をのばし、再チャレンジして自信をつける。

B グループ

（課題）：夜間の飛び出し。叔母との関係。就労希望があるが実行できていない。

（対応）：GH 併設の生活介護→他の就労事業所に行くことで関わる人を増やす。経験を増やし改善を見つける。

C グループ：

（課題）：入退院を繰り返す。後見人叔母との関係ができておらず役割を果たしていない。キーパーソンがいない。作業面でもっとできるのではないかな。将来像が描けていない。病院との情報の共有化。

（対応）：後見人の変更（第 3 者、社協の金銭管理社会資源の活用を増やす）、計画相談の早期対応により関わる人を増やす。就労 B 等自立に向け作業を行う。工賃をもらう事で自信につながる。相談支援、地域定着につなげる。

D グループ

（課題）：入院を繰り返す。定着しない。感情コントロールができていない。叔母から協力が得られない。逆に感情コントロールはできているのではないかな。

（対応）：GH、病院と連携した経過を振り返る。病院の治療内容を明確に。成功体験を重ねる。後見人見直し。

E グループ

（課題）：支援の目標が明確ではない。どこが関わるのか。心のよりどころ。

（対応）：病院入院中から作業所の体験はできないか。働くことの喜びを体験する。

コミュニケーションについては野球以外の話題も広げられるよう、知らない話題は情報提供する支援が必要。

○「事例ケースの特性」 ぱっそり総括

①知的障害と（IQ 高い）アスペルガーとの診断には疑問点あり。“言語能力”を持っていて言葉として発言はできるが、言葉の意味を理解できていない。コミュニケーションの難しさ、社会性、対人関係の問題から自閉症スペクトラム、2 次的な障害として精神障害がある事を考えていかないといけない。

②理想が具体化できない。TV でみて習得した言葉で表現する曖昧な理想、実現する手立てがわからず困ってできない。現実とギャップを感じてしまう。知識情報も少ない。興味関心についてはヒットする事からサポートしながら経験を積み、達成できる環境をつくる。できたことは褒めて評価する、達成途中でも「我慢できていますね、頑張っていますね」と評価しモチベーションを上げるように声かける。

コミュニケーションについては野球以外の話題も広げられるよう、知らない話題は情報提供する支援が必要。

③関わりある時間、作業時間は不安がない。それ以外の一人での時間は色々考え“不安”になり「ここは嫌だ」と夜間に飛び出す→夜間に一人でできる活動があれば考えることが減るかもしれない。

（CSTV を見る等）知らないがゆえに周りから見るとわがままにみえる。目で見えるように視覚的情報を伝えていくことで違う方向性があるかもしれない。

○ポイント

①（本人の特性を）正しく知ること。

②経験すること。

③20～30%の低い段階でもモチベーションを上げるために評価する。

○診断名の変更 日本精神学会にて

- ・ 自閉症スペクトラム障害→自閉症スペクトラム症
- ・ 注意欠陥多動障害→注意欠陥多動症
- ・ 学習障害→学習症